

合には労働組合を融首するのが常で従來の事實は皆之れを證明する主張するのみならず労働條件の改善に伴ふ労働者の待遇の向上は皆之れ労働組合員の努力と犠牲の結果で、労働組合員以外の労働者は皆かゝる犠牲の結果生じたる利益に均霑するのであるが、此等のものは何等労働組合に貢献せざるは恰も種を蒔かすして果實を味ふが如きものであるから極めて不當である。其れのみでなくかゝる非労働組合員は労働組合員が其階級的解放の一端として雇主と争議を開始する場合には動もする罷業破りの破廉恥的行為に出づるものであるから、かゝる階級的裏切り者に對する労働組合員の排厭の念の盛んなるは當然で、従つて其等のものを平時に於て排斥し、之れと共に労働を許せざるは何等枉しむに足らぬいと主張する。階

労働組合はクロード・シヨップは雇主の雇傭の自由を侵害するものであると云ふ事に答へて労働組合は決して雇主の雇傭の自由を束縛するものではないので、唯労働組合員を雇入れる事を要求するのみであるとか説し、更にクロード・シヨップの實行は労働組合の職掌貫徹上必要ばかりでなく、雇主に取ても有利である。何となれば若し總べての工場が労働組合員のみを使用する事になつて労働組合の標準條件で生産をやる事になれば各雇主は其の他の雇主の仕拂ふ賃銀を正確に知る事が出来るから今日の如き激烈なる競争を生まないですみ、又工場内の労働者が労働組合員と非労働組合員と對立する場合には常に暗闘が絶えないから全労働者の気が合しない故に生産能率も増進しない更にクロード・シヨップにす